

JACET Kansai Newsletter

No. 75 July 31, 2016

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗裕子 (滋賀県立大学) (Chapter President: Yuko Oguri, University of Shiga Prefecture)

事務局: 〒577-8550大阪府東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 藤澤良行研究室内

(Chapter Office: c/o Yoshiyuki Fujisawa, Osaka Shoin Women's University)

URL:<http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左のURLからご連絡下さい)

「アクティブ・ラーニング」に思うこと

新田香織 (副支部長)

平素よりJACET及びJACET関西の活動へのご理解、ご協力、そしてご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2016年6月25日(土)にJACET関西支部春季大会が、京都ノートルダム女子大学にて開催されました。ワンフロアですべての活動が可能な利便性と最新の設備を備えた教室の華やかさを享受しつつ、122名の参加者が京都での充実した1日を過ごさせていただきました。会場校のみなさまに改めまして厚く御礼申し上げます。

春季大会では、基調講演が京都大学の山田剛史先生による「アクティブラーニング研究最前線:アクティブラーニングの意義と課題ー主体性×深い学び×汎用的能力ー」、そしてシンポジウムにおいても「アクティブ・ラーニング」を統一テーマとして、村上裕美先生、中西洋介先生、そしてカーティス・ケリー先生に各々の実践を報告していただきました。

否応なく突き進むグローバル化の中で、大卒採用者に占める日本人学生の割合が10%以下という日本企業も出てきました。ハーバード大学などへの日本人留学生の激減という事態に対しても危機感を感じたであろう文科省は、2012年8月28日の中教審で「能動的な学修(アクティブ・ラーニング)」への転換を答申しました。アクティブ・ラーニングの定義は、答申書の用語集に次のように述べられています。

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

2014年12月の中教審では「高校における『アクティブ・ラーニング』」や「新しい時代にふさわしい高大接続の実現」などという表現が資料に表れました。今や中学高校の現場でもてんやわんやという噂です。春

季大会のシンポジウムでは、高校、そして大学でいち早くアクティブ・ラーニングに取り組まれている3名のパネリスト(2名の大学教員、そして1名の高校教員)によって、「学生の学びを引き出し、能動的な態度の育成ができるのであれば、講義スタイルの授業であってもアクティブ・ラーニングが可能である」というコンセンサスが紹介されました。講義スタイルも含めることによって、文科省の定義とは少し異なる我々自身の「アクティブ・ラーニング」の定義を、今後明確にしていく必要もあるように思われます。

また、高大接続の観点から大学入試改革が視野に入っております。何のための入試改革なのか、どのような能力をもった生徒・学生を育成したいのか、またするべきなのか、心の中はクエスションだらけです。グローバル化に対応するために、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の育成などという言葉が飛び交っています。根本的にはグローバル化は是か非かという議論から必要かもしれません。

教員は生徒・学生の幸せな人生をもちろん願っています。でも「幸せな人生」って???「幸せな人生」実現のために、今後日本社会が進むべき道とは???

自分の疑問を学生と探るのが、私にとってのアクティブ・ラーニングかもしれません。あくまでも手段としてのアクティブ・ラーニングを通して、お互いにかに成長できるか。生徒・学生の心に響く授業、そして彼らの心と頭を動かす授業とは。私自身も試行錯誤と失敗をアクティブに繰り返しながら、学んでいこうと思います。

最後になりましたが、JACET関西の会員のみなさま、ぜひJACET関西支部紀要第19号への投稿をお願いいたします。みなさまのご研究や授業実践などを是非共有させてください。9月30日必着です。尚、19号特集として「アクティブ・ラーニング」を取り上げます。〈2009年度第12号から2014年度第17号までの関西支部紀要の目次および本文、2015年度第18号は目次のみを、JACET関西のホームページに掲載しております。ご参照いただければ幸いです。〉

■支部研究会のご案内■

JACET 関西支部では 10 の研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介いたします。各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は JACET 関西支部 HP にてご確認ください。

JACET Kansai Chapter has the following ten Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to the JACET policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. Please refer to <http://www.jacet-kansai.org/group.html> for more information, or contact the chair of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：幸重美津子 (京都外国語大学)

yuki[AT]balloon.ne.jp

副代表：時岡ゆかり (大阪産業大学)

ytokioka[AT]las.osaka-sandai.ac.jp

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：吉田幸治 (近畿大学)

k_yoshida[AT]bus.kindai.ac.jp

副代表：山本 修 (大阪市立大学)

yamamoto[AT]mae.osaka-cu.ac.jp

◆ESP 研究会 (English for Specific Purposes)

代表：上村バックス尚美 (近畿大学)

backes[AT]waka.kindai.ac.jp

副代表：服部圭子 (近畿大学)

khattori[AT]waka.kindai.ac.jp

副代表：浅井静代 (立命館大学)

sasai[AT]fc.ritsumeimei.ac.jp

◆「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：相川真佐夫 (京都外国語大学)

m_aikawa[AT]kufs.ac.jp

副代表：米崎 里 (福山大学)

michi[AT]fuedu.fukuyama-u.ac.jp

◆教材開発研究会 (Materials Development)

代表：尾鍋智子 (大阪大学)

onabe[AT]msc.osaka-u.ac.jp

副代表：赤尾美和 (近畿大学 非)

miwa_0722[AT]yahoo.co.jp

◆科学英語教育研究会 (English for Japanese Scientists)

代表：尾鍋智子 (大阪大学)

onabe[AT]msc.osaka-u.ac.jp

副代表：幸重美津子 (京都外国語大学)

yuki[AT]balloon.ne.jp

◆授業学(関西)研究会 (Developmental Education)

代表：村上裕美 (関西外国語大学短期大学部)

hiromim[AT]kansai-gaidai.ac.jp

副代表：東郷多津 (京都ノートルダム女子大学)

togo[AT]notredame.ac.jp

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：松村優子 (近畿大学 (非))

yuko-ma[AT]kcc.zaq.ne.jp

副代表：原田洋子 (関西国際大学 (非))

brisk4050[AT]ta2.so-net.ne.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：伊藤佳世子 (京都大学)

cybel.kayoko[AT]orion.ocn.ne.jp

副代表：表谷純子 (関西学院大学)

j.omotedani[AT]gmail.com

◆ライティング指導研究会 (Writing)

代表：嶋林昭治 (龍谷大学)

shima777[AT]biz.ryukoku.ac.jp

副代表：山西博之 (関西大学)

hiyamani[AT]kansai-u.ac.jp

■2016 年度春季大会の報告■

2016 年度 JACET 関西支部春季大会が、2016 年 25 日 (土) に京都ノートルダム女子大学にて開催されました。関西支部春季大会では、大会の活性化を目指し学生会員も含めた多くの皆様からのご発表を募集したところ、12 件の実に多彩かつ、興味深いご発表がいただけました。基調講演では山田剛史先生 (京都大学) にお話をいただき、続いて村上裕美先生 (関西外国語大学短期大学部)、中西洋介先生 (近畿大学付属高等学校)、カーティス・ケリー先生 (関西大学) によるシンポジウムが行われました。また特別講演では、多田稔先生 (顧問、元支部長) が、「JACET 関西支部への期待」の題目で、大谷泰照先生 (顧問、元支部長) の進行によってお話をいただきました。参加者総数は、JACET 会員 103 名、JACET 非会員 19 名の合わせて 122 名となり、盛況な大会となりましたことをご報告いたします。

The JACET Kansai Chapter Spring Conference was held on June 25 at Kyoto Notre Dame University with 122 participants attending presentations, symposia in various areas of English education, and a special talk. A keynote lecture was given on "Significance and Challenges of Active Learning: Self-directed Learning, Deep Learning, and Generic Skills" by YAMADA, Tsuyoshi (Kyoto University). A symposia at The JACET Kansai Chapter Spring Conference was presented by MURAKAMI, Hiromi (Kansai Gaidai College), NAKANISHI Yosuke

(Kindai University High School), KELLY Curtis (Kansai University). Finally a special talk was delivered by TADA Minoru (JACET Adviser/ Former Chapter President) under the title "Expected Roles of JACET Kansai Chapter" hosted by OTANI Yasuteru (JACET Adviser/Formal Chapter President).

<春季大会 基調講演>「アクティブラーニング研究最前線：アクティブラーニングの意義と課題—主体性 x 深い学び x 汎用的能力—」山田剛史先生（京都大学）

様々な学習成果を高める教育方法として注目され、急速に普及している「アクティブ・ラーニング (AL)」について、推進されている背景、定義と特徴、技法という3点に分けて講演は進んだ。まず、大卒者のうち安定的な雇用に就いていない者が多いという最近の数字を示しつつ、高度な技術が発展する中ではますます雇用が失われる可能性が高いため、安心で安全な社会に卒業生を送り出すのが難しくなっているという大学に関する現状認識を共有した。そういった社会状況の中で、たくましく幸せに生きられる卒業生をより多く送り出す必要が、AL普及の背景にはあるのだという。そのため、大学教育の質的転換が求められており、従来の「教授」型から「学習」型へとパラダイムが移り変わってきている。ALは、教員による一方向的な講義形式という伝統的かつ受動的な学習ではなく、学生が能動的に活動を行い経験を果たした上で、そこで学んだものを振り返って感じたものを外化するという過程までが含まれている。つまり、「行為」と「リフレクション」のいずれもが重視されているのだという。ALの種類としては、知識の定着・確認を目指す一般的なAL（ドリル、小テスト等）と、知識の活用や課題解決を目標とする高次のAL（複数の課題に取り組む、産学連携、課題の自己設定等）と、その目的によって異なったものが採用される。その具体的なものとして、ペア・リーディングや、ピア・インストラクション、ジグソー法等が示された。なお、今般の講演では、導入部分から半ば、そして締めくくりに至るまで複数回にわたり、聴衆に隣の人と話し合うことを促したり、意見を発表させるなど、まさに講演そのものがアクティブ・ラーニングさながらの展開であった。 報告者：金井啓子（近畿大学）

<春季大会 シンポジウム>

シンポジウム(1)「リメディアル教育におけるアクティブラーニング—大学生の学びを再考する—」
講師：村上裕美先生（関西外国語大学短期大学部）

シンポジウム(2)「英語の反転授業でできること」
講師：中西洋介先生（近畿大学付属高等学校）

シンポジウム(3)「Making Brains Active with Stories」
講師：カーティス・ケリー先生（関西大学）

本シンポジウムでは、Active Learning(AL)最前線というテーマのもと、大学や高等学校の英語教育における先進的なAL実践例として3例が紹介され、ALが学生の学習効果を促す可能性について考察された。村上先生は、英語を苦手とするリメディアル学習者に対し、主体性・自立性・深い学びをもたらすALとして、アプリのシナリオを作成する等の発信型実践例を報告した。また中西先生は、学生が授業前にCyber Campusにおかれた解説動画を視聴し、授業ではその内容の復習・練習・応用を行うという「反転授業」をiPadを利用して実施する先進的な試みを紹介した。ケリー先生は、学生自身でPowerPointを用いてストーリー（物語）を作り上げるDigitalesというALの実践例を紹介し、現在広がりを見せているExtensive reading（多読）に続き、Digitalesが注目される教育実践となる可能性を指摘した。今回のAL実践最前線として紹介された実践例は、学生がALを通して主体的な学習者へと変容するためには、教員が授業の準備・運営に対しActiveな姿勢をもつ必要があることを指摘していたと思われる。現在多くの教育機関でALの必要性が謳われる中、3講師の発表は、今後ALを導入・推進していく上で非常に貴重であった。

報告者：柏原郁子（大阪電気通信大学）

<特別講演>「JACET 関西支部への期待」

講師：多田稔先生（顧問、元支部長）
聞き手：大谷泰照先生（顧問、元支部長）

本特別講演では、JACET 関西支部設立の生みの親、育ての親である多田先生と大谷先生からJACETの設立と歩みにまつわる貴重なお話を頂いた。多田先生は、1) 戦後の教育状況とJACETの発展、2) JACET 関西支部設立の経緯、3) JACET 関西支部の発展と課題、4) 新時代のJACETの在り方について述べられた。その際、北アイルランド出身のシェイマス・ヒーニーの詩について言及され、詩の中に出てくる「安住の地(理想郷)」をJACET 関西支部と縁のある京都ノートルダム女子大学とJACET 関西支部学会に喩えられ、終始穏やかな口調でお話しになった。多田先生が支部長でいらっしやった頃、学会を開くのは簡単ではなかったと語られた。大学の先生に約束をとったり、関西支部しかなかった当時は、三重県、名古屋、岡山にいらっしやる先生にも手紙をお出しになったりした。企画委員会では、次から次といろいろなことについて討議し、決めてきた。勉強するグループを作り、専門性を持って自律してやっていくんだ、という思いでやってきた。学会を開くのは簡単ではなかったが、周りに理解してくださった先生が多くいらっしやったからこそでき

た。信用、協力なくして学会は成り立たないと振り返られた。日本の英語教育の在り方が曖昧になってきているのが現状であるが、今後の JACET の在り方としては、独断にならないことが肝要で、学会に来て、仲間ができる、そして、協働してやる姿勢を持つ、でも自分の足場を固めて専門性も持ち、楽しくやることが大切だと締めくくられた。また、大谷先生は、国の言語政策に興味を持ち、自分たちの置かれた状況を考え、英語教育に携わっていくことが重要であると補足された。最後に、新田先生が、今後も JACET が「安住の地」になるように頑張っていきたいとご挨拶なさった。同じ気持ちである。

報告者：香林綾子（甲南大学）

■2016 年度第 1 回支部講演会の報告■

JACET 関西支部 2016 年度第 1 回支部講演会が、2016 年 7 月 9 日（土）に神戸国際会館で開催されました。講演には 46 名の参加があり、科学英語教育研究会および授業学（関西）研究会より、最前線の研究成果のご発表があり、参加者の皆様は熱心に聞き入っておられました。講演会後には茶話会を開催しましたところ講師の先生方を含めて 26 名の皆様にご参加をいただき、さらなる議論を深めるとともに親交を深めていらっしゃる様子がうかがえました。多くの皆様のご参加、ご協力誠に有難うございました。

講師：科学英語教育研究会

野ロジュディー津多江先生（神戸学院大学）

尾鍋智子先生（大阪大学）

演題：「科学英語—大学院教育の視座から」

講師：授業学（関西）研究会

村上裕美先生（関西外国語大学短期大学部）

演題：「授業学とは」

The first Lecture Meeting of the 2016 academic year was held on July 9th at Kobe International House, with 46 participants. The speakers from English for Japanese Scientists SIG and Developmental Education Kansai Chapter SIG shared with the audience about their latest research.

■2016 年 JACET 関西支部第 2 回・第 3 回 支部講演会の案内■

JACET 関西支部では、下記の通り、年度内にあと 2 回の講演会を予定しております。

第 2 回：2016 年 10 月 15 日（土）

<リーディング研究会企画>

場所：同志社大学今出川キャンパス（予定）

演題：「アメリカのバイリンガル教育から日本の英語教育が学べること」

講師：長谷尚弥先生（関西学院大学）

概要：アメリカにおけるバイリンガル教育には言語教育の本質が存在すると考える。アメリカにおけるバイリンガル教育を見ることで、日本における英語（言語）教師として私たちが考えなければならないことを、言語や言語教育の持つ社会政治的な意味、言語と密接に関わる「文化」の意味、多言語多文化主義、学習者の言語的文化的アイデンティティ等を中心に考えたいと思う。

第 3 回：2017 年 3 月 11 日（土）（訂正）

<学習英文法研究会企画>

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）

※参加費：JACET 会員は無料。非会員は 500 円。

事前申し込みの必要はございません。

※要旨などの詳細は、開催が近づきましたら、支部 HP に掲載致しますのでご覧ください。

JACET Kansai Chapter will hold two other Lecture Meetings in this academic year as follows:

-The 2nd Lecture Meeting by the special interest group for Reading on October 15, 2016 at the Imadegawa Campus of Doshisha University

Title : What EFL Teaching in Japan Can Learn from Bilingual Education in the USA

Speakers : Naoya Hase (Kwansei Gakuin University),

Abstract: I believe that bilingual education in the USA contains the essence of language education. By looking at bilingual education in the USA, I would like to think about what we as English (language) teachers should keep in mind, focusing on the sociopolitical meaning of language and language teaching, “culture” as related to language teaching, multilingualism and multiculturalism, linguistic and cultural identities of language learners.

-The 3rd Lecture Meeting by the special interest group for Pedagogical English Grammar on March 11, 2017, at the Osaka Umeda Campus of Kwansei Gakuin University,

Refer to details at the JACET Kansai Chapter home page (<http://www.jacet-kansai.org>).

Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.

■JACET 第 55 回国際大会のお知らせ■

2016年9月1日(木)から3日(土)まで北星学園大学にてJACET 第55回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ: ボーダレス時代における英語教育をデザインする

開催日程: 9月1日(木) ~ 9月3日(土)

開催場所: 北星学園大学

要旨: これまで私達が直面する課題を解決するために、多くの指導法が開発され、実践されてきた。また、ボーダレス時代における英語運用能力の必要性の高まりを背景にして、多くの研究がなされてきており、指導法や指導技術がどれほど効果的であるか、学生をどのように評価するのか、どのような教材が用いられるべきかが調べられてきた。実際の授業の場面においても、私達はこの必要性に応じて対処しなければいけないし、第二言語学習に対する多様な期待を裏切らないために処置を講じていかなければいけない。

大学英語教育学会第55回(2016年度)国際大会では、小学校から大学までの英語教育の新たな展望や取り組みに関して、教育法、教材開発、そして、評価という三つのテーマを中心に俯瞰的に議論し、それら革新的なアプローチについて第二言語習得理論から考察を加える。また、グローバリゼーションと多言語社会を背景にした学際的な研究が進む中、時代に対応した新たな指導法、言語と教科内容(コンテンツ)の統合をどのようにデザインし実施していくかを考察する。本大会では、このボーダレス時代におけるクラスルーム内外の英語教育全般を視野に入れた議論の場とし、いかに大学教育に応用できるのかを探究したい。

The JACET 55th International Convention

-Theme: Designing English Education in a Borderless Ara

- Date: September 1 (Thurs.) – September 3 (Sat.), 2016

- Venue: Hokusei Gakuen University

- Abstract: Many pedagogical approaches have been developed and implemented to cope with the teaching challenges we face. Much research has been conducted to investigate what approaches or techniques are effective, how students are evaluated, and/or what resources are to be directed towards the growing needs for English competency in a borderless era. From the practitioner's viewpoint, we are faced with the issues of how to work with an ever increasing number of diverse needs and with students who often approach second language learning with vastly different expectations.

The JACET 55th (2016) International Convention will

comprehensively discuss new perspectives and initiatives for English education from the primary to college levels centering on the three themes of pedagogy, materials development, and evaluation. We will examine these innovative approaches from the viewpoint of second language acquisition theory. While progressing with interdisciplinary research in the context of globalization and plurilingual environments, we will also explore how to design and implement new pedagogical methods adapted to the globalized era and the integrated teaching of language and contents. The JACET 55th (2016) International Convention will offer opportunities for discussion on all levels of English education for the classroom and beyond in this borderless era and investigate how insights gained from such research and discussion can be applied to tertiary education.

Visit the 55th International Convention URL

<http://www.jacet.org/2016convention/index.html>

■2016年度関西支部秋季大会開催のお知らせ■

2016年度の関西支部秋季大会が来る11月26日(土)に関西外国語大学中宮キャンパスで開催されます。秋季大会ではスピーキングにスポットを当てた研究最前線シンポジウムや講演等を企画しています。出版社による展示およびプレゼンテーションが予定されています。晩秋の一日、研究と教育のヒントがぎゅっと詰まったこの催しにみなさんの参加をお待ちしています。8月1日(月)よりJACET 関西支部ホームページにて、秋季大会の発表募集を開始します(<http://www.jacet-kansai.org>)。発表募集の締め切りは9月16日(金) 23:59です。

The 2016 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter will be held on Saturday, November 26 at Nakamiya Campus of Kansai Gaidai University. The feature topic is "speaking" for the conference. Details will be announced in our website. We welcome presentation proposals for the conference from all members, including our student members. A web-based proposal form will be available at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) from August 1. The submission deadline is September 16 (Fri) 23:59. Come and share your work with the JACET community!

<<募集要項>>

2016年度JACET関西支部秋季大会が、11月26日(土)に関西外国語大学にて開催されます。発表をご希望の方は、次の要領でWEBフォームよりご応募ください。教員だけでなく、大学院生の会員による応募も歓迎い

たします。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限ります。
2. 発表者（共同発表者を含む）は、JACET会員に限ります（申込時点で会員資格が必要です）。
3. 発表言語は、日本語または英語です。
4. 発表種別・時間に関しては、以下の通りです。
 - ワークショップ：発表者は1名～数名。参加者によるタスク活動を含む。90分。
 - コロキアム：発表者は数名。特定のテーマについての議論を行う。90分。
 - 研究発表：理論的、実証的な研究成果に関する発表を行う。30分（発表20分＋質疑10分）。
 - 実践報告：授業実践やカリキュラム改革に関する発表を行う。30分（発表20分＋質疑10分）。
 - ポスター発表：研究・実践内容について発表し、参加者と自由に議論を行う。コアタイム60分。
5. 応募は8月1日（月）よりWEBフォームから可能となります。随時、JACET関西支部ホームページ上（<http://www.jacet-kansai.org>）に関連情報を掲載しますので、ご確認ください。また、応募に際しては以下の情報が必要となりますので、あらかじめご準備ください。

A) 応募情報

- a) 発表形式：ワークショップ、コロキアム、研究発表、実践報告、ポスター発表の別
- b) 発表題目（日本語および英語、英語の場合はタイトルの各単語をキャピタライズしてください）
- c) 発表者情報（共同発表者は氏名と所属のみ）：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、E-mailアドレス
- d) 発表に使用する言語（日本語もしくは英語）
- e) 使用希望機器（無い場合は「なし」を選択）

B) 発表要旨

- a) 内容：「研究発表」の場合は、目的、仮説（リサーチクエスション）、研究方法、結果、考察を、「実践報告」の場合は、背景、具体的内容、実践結果に対する考察を簡潔に明記ください。「ポスター」の場合も扱う内容に応じ、これらに準ずることとします。なお、「ワークショップ」「コロキアム」は目的、対象、手法を詳しく明記してください。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めません。
- b) 分量：日本語の場合は350字～400字、英語の場合は200～250 wordsとし、要旨末尾に字数ないし語数を丸カッコ書きで明記することとします。

6. 応募の期限は、2016年9月16日（金）午後11時59分です。
7. 審査は、JACET関西支部研究企画委員会にて行います。
8. 審査結果は10月16日以降にE-mailにて通知します。またフィードバックを必要に応じて行います。
9. 審査結果の通知後の辞退は原則としてできません。

=====

JACET関西支部研究企画委員会
jacetkansaiconf@gmail.com

Call for Papers

2016 Autumn Conference of the JACET Kansai Chapter
Kansai Gaidai University, Nakamiya Campus
Saturday, November 26th, 2016

The 2016 Autumn Conference of the JACET Kansai Chapter will be held at Nakamiya Campus of Kansai Gaidai University on Saturday, November 26th. JACET members are invited to present proposals for research papers, practical reports, poster sessions, workshops, and colloquia. Applications are also welcome from graduate students.

The conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time of submission.
- 3) The language for presentation should be either English or Japanese.
- 4) Presentation types and time allotments are as follows:
 - Workshops: Presenter(s) will guide participants in specific tasks. 90 minutes.
 - Colloquia: Each presenter gives a presentation followed by discussion among the presenters and with the floor. 90 minutes.
 - Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).
 - Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum innovation. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).
 - Poster presentations: Presenter(s) will participate in one-on-one discussion of research or practical report using a poster. 60 minutes (core time).

- 5) A web-based proposal form will be available at the web site of JACET Kansai Chapter (<http://www.jacet-kansai.org>) from August 1st.

A) Application form:

- a) Type of proposal (research paper, practical report, poster session, workshop, or colloquium)
- b) Title of proposal (English and Japanese; Capitalize each word in English)
- c) Information about applicant(s): name, affiliation, e-mail address
- d) Language for presentation (English or Japanese)
- e) Equipment required

B) Abstract:

- a) Describe the purpose of the research, research question(s), research method(s), results and discussion. For a practical report, give the background of the report, details, conclusion, and other relevant information. Do not include references in the abstract.
 - b) Should be 200-250 words if in English or 350-400 characters if in Japanese. Give word count in parentheses at end of abstract.
- 6) Submission deadline: 11:59 pm, September 16th, 2016.
- 7) The proposals will be peer-reviewed by the Research Planning Committee.
- 8) Review results and feedback, as necessary, will be sent by after October 16th.
- 9) Cancellation after the acceptance of the presentation is not permitted in principle.

=====

JACET Kansai Chapter Research Planning Committee
jacetkansai@conf@gmail.com

■紀要編集委員会より■

今年度刊行の第19号支部紀要は、招待論文、一般投稿論文に加え、支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集します。今年度より、論文投稿締め切り期日は9月30日(水)となっております。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるように、投稿規定をご確認の上、第19号紀要にも奮ってご応募ください。

投稿期限：2016年9月30日(水)午後11時59分
論文送付先：紀要編集委員会 事務局長
吉村征洋(摂南大学)

[jacetkj \[AT\] gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

提出方法：電子メールの添付ファイルのみ(原稿郵送は不要)

※ 受領後3日以内に確認の返信が届きます。万一3日経っても返信が届かない場合は、吉村まで再度ご連絡ください。

※ 提出方法の詳細は、JACET 関西支部ホームページをご覧ください。

(<http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>)

重要な日程：

2016年 9月30日(必着) 投稿原稿締め切り

12月15日 審査結果通知

2017年 1月10日(必着) 修正原稿締め切り

3月31日 刊行

JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for consideration for publication in JACET Kansai Journal (JKJ) No. 19.

Papers should be related to research on college English language education or relevant areas. The JACET Kansai Journal especially welcomes papers that have been presented at JACET chapter or national conferences within the past year. Please check the guidelines for details on submission procedures and requirements available at <http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>.

Submit manuscripts to:

Masahiro YOSHIMURA, Ph.D.

JACET Kansai Journal Secretariat

[jacetkj \[AT\] gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please request confirmation. Only e-mail submission will be accepted. Postal submission of paper-based manuscripts will NOT be accepted. Prepare your manuscript according to the JKJ instructions using Microsoft Word. Send it as an attached file with an email message to Dr. Masahiro YOSHIMURA, Secretariat, JACET Kansai Journal.

Important Dates:

- Deadline for manuscripts:

September 30, 2016 (via email as an attached file)

- Announcement of editorial decision:

December 15, 2016

- Deadline for receipt of revised manuscripts:

January 10, 2017 (via email as an attached file)

- Publication:

March 31, 2017

Refer to the guidelines and template at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■事務局便り■

今年の秋に JACET が一般社団法人となって 2 回目の社員選挙が行われます。事務局が選挙管理をすることになりますので、手順や仕組みなどについて勉強中です。秋に会員の皆さまへ連絡させていただくこととなりますが、投票時にはご協力くださいますように。

今年の国際大会は北星学園大学での開催です。多くの会員の皆さまと会場でお目にかかるのを楽しみにしております。それまでの、予想される猛暑をどう凌ぐのか、何とか工夫したいと思っています。ご自愛ください。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメールング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変更された方は、必ず JACET 本部へご連絡ください。紀要、講演会案内フライヤー、ニューズレターなどのお届けに支障が生じるおそれがございますので、今一度ご確認ください。

事務局からのご連絡のメールが、宛先不明等で数多く戻って参ります。JACET へお届けになっているメールアドレスをご確認ください。

なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。ご異動等のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers or other personal information to **JACET headquarters** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).